

今後のラウンド交渉の見通し

- (1) 2001年11月に立ち上げられたラウンド交渉は間もなく8年目。来年1月には米国でブッシュ政権が任期を迎え、新政権が発足することもあり、年末までの妥結を目指した交渉が鋭意行われている。年内妥結が実現しなければ、今後数年間、交渉が停滞するおそれあり。
- (2) ラウンド交渉妥結に向けては、今般のG8北海道洞爺湖サミットでも首脳レベルで下記のとおり確認されたところ。

<G8首脳文書（7月8日発出）関連部分仮訳>

「交渉が決定的に重要な段階にあることにかんがみ、我々は、喫緊の課題として交渉妥結に向け取り組む決意を改めて表明し、すべてのWTO加盟国に対し、農業及び非農産品市場アクセス（NAMA）のモダリティを確立し、サービス分野において積極的かつ目に見える成果を達成すべく、実質的な貢献を行うよう呼びかける。我々は7月21日から始まる閣僚会合の招集を歓迎する。我々はまた、同じ機会に行われるサービス貿易に関するシグナリング会議を開催することを支持する。我々は、全体的なバランスを確保するため、一括受諾の下にあるすべての分野において、進捗をはかり、有意義な成果を実現する必要性を強調する。」

- (3) 今般の農業・NAMA改訂議長テキスト発出後のジュネーブでの動き（見通し）は次のとおり。

7月10日 農業・NAMA改訂議長テキスト発出

7月19日頃～ 閣僚レベルによる二国間会合等

7月21日～ 閣僚会合

(注) サービス分野の「シグナリング会合」（次期オファーの内容を表明し合う会合）もこの機会に開催される見込み。

(注) 閣僚会合の終了日時は具体的に定められていない。

7月29日～30日 一般理事会

- (4) 来る閣僚会合において農業・NAMAのモダリティ合意が実現する場合、その後は、年内妥結を目指して、次の3つの作業が並行して行われることとなる。

- ① 農業・NAMAの譲許表作成
- ② サービスのオファー提示と約束表作成
- ③ ルール等の交渉分野の最終交渉